

腐食していくアメリカ国民の人格

【訳者注】ここに選んで訳す論文は、原文の読者のコメント欄の評価を、必ずではないが参考にしてている。このP・C・ロバーツ論文も高い評価を受けている。

トップが腐敗しても、民間の批判精神や倫理道徳が健全なら大丈夫だと我々は考えたい。しかしそういうものでないことを、この論文は、刑事裁判制度を例にとって説明している。上層部の腐敗は末端にまで浸透して、国民性そのものを腐敗させる。アメリカの囚人の異常な多さは、心の自由が奪われていることの反映で、これは国家の自浄力が失われていることを意味するだろう。すべてにおいてアメリカに倣う我が国も、その轍を踏むのだろうか？

By Paul Craig Roberts

July 24, 2015 (Information Clearing House)

そのような人物の人生が

どこかの愚か者の手の中にあるとは、どうしたことか？

彼が明らかに囚われているのを見ると

私はある恥ずかしさを抑えきれなくなる——

正義がゲームであるような国に住む恥ずかしさ。

——ボブ・ディラン、“ハリケーン”

弁護士の John W. Whitehead は、彼のラザフォード研究所サイトの最近の掲載文（後出）を、ボブ・ディランの歌のこのような言葉で始めている。なぜ我々のすべてが恥ずかしくならないのか？ なぜボブ・ディランだけなのか？

ボブ・ディランのファンのうち、彼の言っていることを理解する人々が、どれくらいいるだろうか？ アメリカの正義（裁判）は罪の有る無しに関係がない。それは検察官の確信する基準によるだけであり、それが彼の政治的経歴を左右する。アメリカ国民の騙されやすさを考えれば、アメリカの陪審員とは、罪のない被告が自分の運命を任せるのに、最もふさわしくない人である。陪審員はほとんどいつも、罪のない者を裏切っている。

Lawrence Stratton と私が共著（2000、2008）で示したように、アメリカに正義はない。我々は最初、この本の題を「いかに法が失われたか」とした。これは、法律を無実の者を守る盾と考える、法の保護的性格が、時間とともに、政府の手にある武器、人民に向けられる

武器に変わってしまった事情を、説明する本である。盾としての法律が失われたのは、“我々の代表としての政府”が警察国家を建設するのに利用した、9・11より前のことだった。

出版社の販売部は、我々のタイトルが気に入らず、代わりに「よい意図の暴虐」(Tyranny of Good Intentions)はどうかと提案した。我々はこの題がどういう意味かを訊ねた。販売部の答えは、我々の本は犯罪との戦い、児童虐待との戦い、麻薬との戦いを取り上げているが、そのすべてがよい意図から起こって、結局、暴虐的結果を生み出したという意味だと説明した。出版社のタイトルはどうやら成功したようで、15年後もこの本はまだ印刷されている。この年月の間にそれは十分売れたので、もしこれが出版と同時に売れていたら、ベストセラーとなっていたかもしれず、そうなっていたらもっと注目されて、ロースクールや弁護士協会がこれを利用することによって、警察国家を食い止めたかもしれない。

ホワイトヘッドは、無実の被告が、無罪の判決を勝ち取ることがいかに難しいかを論証している。たとえ虚偽の告発をされた被告とその弁護士が、検察の強く勧める司法取引(plea bargain)を退けるのに成功して、裁判にたどり着いたとしても、彼らが直面するのは陪審員たちで、陪審員たちは、検察官、警察官、あるいは無実の被告に不利なウソをつくように買収された証人を、疑うことができない。陪審員は、クリントン政権が、ウェーコのブランチ・ダヴィディアン教団を襲撃したとき、生き残った少数の人たちを、有罪にさえた。彼らは米連邦軍によって、ガスや射撃や火によって殺されるのを免れた、少数の人たちだった。この宗教的セクトは、ワシントンと御用メディアによって、子供虐待者として悪魔化され、自動兵器を製造しながら子供たちをレイプしていると言われた。この非難は、サダム・フセインの“大量破壊兵器”などのように、虚偽であることが判明したが、それは無実の人々がすべて死ぬか投獄された後のことだった。

問題は、なぜアメリカ人が、無実の者たちが殺されている間、黙っていただけでなく、彼らを殺すことを現実支持したかということである。“公的ソース”が繰り返しウソを言い、決して真実を言わないという証明された事実があるにもかかわらず、なぜアメリカ人は、“公的ソース”を信ずるのだろうか？

そこから引き出せる唯一の結論は、アメリカ国民に、国民としての資格がないということである。我々は正義(裁判)に値せず、慈悲に値せず、米国憲法に値せず、真理に値せず、すべてに値しない者たちである。我々は民主主義と代表政府に対しても、自分自身と人類に対しても、建国の父たちが我々に植え付けた自信に対しても、神に対しても、資格のない者たちである。もし我々が、かつて持っていたと言われた人格を持っていたとしたら、明らかに我々はそれを失ってしまった。“アメリカン・キャラクター”と言われるものは、残っていたとしても、ほとんど見る影もない。

グアンタナモ・ベイの Abu Ghraib の拷問刑務所に、アメリカ的人格が見られたらどうか？ 米軍や CIA の職員が、囚人を拷問し虐待するときに感ずる喜びの写真証拠を提出した、あの隠された CIA の拷問牢獄はどうだったのか？ 公式報告は、拷問とともに、強姦、男色、殺しが行われていたと結論した。このすべてが、学位をもつアメリカの心理学者たちによって監督されていた。

同じ非人間性は、女性、子供、高齢者、肉体的・精神的障害者に対して、無条件に暴力を振るう米警察にも見られる。全く何の理由もなく、警察はアメリカ国民を、殺し、殴り、電気ショックを与え、虐待する。毎日その証拠が出てきており、その報告にもかかわらず、暴力はますます増えていく。明らかに警察は、彼らが奉仕し保護することになっている市民に、苦痛と死を与えることを楽しんでいる。警察権力には、いつの時代もそういう輩がいたが、最近の気まぐれな警察暴力は、アメリカ的人格が完全に崩壊したことを示している。

このアメリカン・キャラクターの消失は、我々自身にとっても世界にとっても、絶大な災害的結果をもたらしている。国内では、アメリカ人は警察国家をもち、すべての憲法による保護が消え失せた。海外では、イラクやリビアといった、かつて繁栄した国々が破壊された。リビアはもはや国家として存在していない。百万のイラク人が死に、4 百万人が外国へ亡命し、何十万という孤児や生まれつきの障害者が、アメリカの指令から生まれている。そして今も、残ったものを奪い合う党派グループの暴力が続いている。これらの事実は疑いの余地のないものである。にもかかわらず合衆国政府は、イラクに“自由と民主主義”をもたらしたと主張している。「ミッション完了！」と、21 世紀の大量殺人者の一人、ジョージ・W・ブッシュは宣言した。

問題はこういうことだ——どうしてアメリカ政府は、このような明らかに途方もない虚偽の主張を、残りの世界からも、自国民からも糾弾されることなしに、押し通すことができるのか？ 答えは、すぐれた人格が世界から消えてしまったということだろうか？

それとも世界の残りの者たちが、怖くて抗議できないということだろうか？ ワシントンは、主権国家とされる国々に対し、自分の意志を黙認するよう強制することができる。服従しなければ、ワシントンが支配する国際的支払いメカニズムから、切り離すことができる。あるいは制裁を課することができる。もしくは爆撃、ドローン攻撃、侵略、それとも暗殺かクーデタによる政権転覆をやってのけることができる。この地球惑星全体で、ワシントンに立ち向かうことのできるのはロシアと中国の 2 国だけだが、両国とも、避けられるものなら立ち向かおうとは思っていない。

理由は何であっても、アメリカ人だけでなく、世界の人々の大多数が、同じようにワシントンの悪を受け入れ、そのことによって悪に加担している。道徳的良心をもつ人々は、次第にワシントンとロンドンによって、“国内過激派”と位置付けられ、一斉逮捕して収容所送りにすべき者たちと考えられている。最近の、Wesley Clark 将軍や、英首相キャメロンの発言を調べていただきたい。また Janet Napolitano の発言、祖国安全保障省はその焦点を、テロリストから国内過激派（曖昧な、どうとも取れる言葉）に移したという言明を思い出してほしい。

すぐれた人格をもつアメリカ人は、無抵抗な立場へと押しやられつつある。ジョン・ホワイトヘッドが明らかにしたように、アメリカ国民は、彼らの税金で雇われている“彼らの警察”に、1日に3人のアメリカ人殺しを、やめさせることさえできない。しかもこれは公表された殺人件数にすぎない。実際の数はもっと大きいであろう。

ホワイトヘッドが説明し、私が何年も前から気づいていたことは、アメリカ国民が、自分自身の真理と虚偽の感覚を失ってしまっただけでなく、他国民に対する慈悲と正義の感覚をも失ったことである。クリントンの第2政権に遡って、過去20年間にわたってワシントンが根絶してしまった何百万という他国民に対して、アメリカ人は全く責任の観念を受け入れない。何百万という死の一つひとつが、一つのワシントンのウソに基づいている。

クリントンの国務長官だった Madeleine Albright が、50万人イラクの子供たちを死なせることになった、クリントン政権の経済制裁は正当化されるかと尋ねられたとき、彼女はこれを肯定しながら、明らかに、アメリカ国民の憤慨を予期している様子はなかった。

アメリカ人はこの事実に向き合う必要がある。人格の喪失は、自由の喪失と、政府が一つの犯罪企業に変貌したことを意味する。

アメリカの悪夢：刑事裁判制度の暴虐

By John W. Whitehead

July 21, 2015 (The Rutherford Institute)

[本来はここにボブ・ディランの詩が引用されている]

アメリカにおける裁判は、それが受けている評価とはかけ離れたものだ。

ために、犯してもいない強姦と殺人で、16年間も獄中で過ごした **Jeffrey Deskovic** に訊ねてみるとよい。デスコヴィッチの DNA が、殺人現場で見つかったものとは一致しなかったにもかかわらず、彼が犠牲者の葬式で泣いたという理由で（当時彼は16歳だった）、容疑者として警察に目をつけられ、それから2か月間、不当な訊問に責められ、罪を告白してしまった。彼は結局、650万ドルの賠償金を払ってもらった。

James Bain は、9歳の少年を誘拐し性的暴行を行ったとして35年間、獄中で過ごした。しかし彼もまた、そんな罪は犯していなかった。検察側の主張が薄弱なものであったにもかかわらず——ベインのファースト・ネームが強姦者のものと同じだったこと、ベインが赤いバイクを持っていたこと、それに、ヒステリックになった9歳の少年がベインを容疑者名簿に間違っただけだった——彼は終身刑を言い渡された。彼は、DNA鑑定が彼の無実を証明した後、やっと釈放され、170万ドルの賠償金を得た。

Mark Weiner は、彼の経験を、覚えのない罪で一生涯を獄中で過ごしている何千という人々と比べると、比較的簡単に釈放された。ワイナーもまた、間違っただけで逮捕され、有罪とされ、犯した覚えのない罪で2年以上も監禁されていた。彼の場合は、ある若い女性の主張によって、ワイナーが彼女を誘拐し、彼女を殴り倒し、それから彼女のボーイフレンドに、彼女を強姦してやるという、文書によるからかいのメッセージを送ったことになっていた。携帯電話の記録からも、目撃者証言からも、専門家の見解によっても、この若い女性が事件全体をでっち上げたことが明らかだったにもかかわらず、検察官と裁判官は、この女性の無理な作り話に矛盾する証拠を、繰り返しすべて却下し、ワイナーを更に8年の刑に処した。ワイナーがやっと釈放されたのは、彼を訴えた女性が、変装した警官にコカインを売って捕まったときだった。

一方、ワイナーは職を失い、家も、貯えも、妻や幼い息子と過ごす時間も失った。雑誌 **Slate** の報道記者 **Dahlia Lithwick** が警告したように、「もし誰かが、マーク・ワイナーが今週、釈放されたことは“制度が機能している”証拠だ、とでも言ったなら、私はその人の横っ面を殴らなければならない。なぜなら、あらゆる機会において、ワイナーの無罪の証拠を考えるために機能すべきだった制度が、彼に対しては機能しなかったからだ。」

機能すべきだった制度が機能しなかったのは、この制度が、ほとんど修復不可能なまでに壊れているからである。

12 Angry Men や *To Kill a Mockingbird* のような裁判スリラー小説では、最後には正義が差し出されるが、それは誰かが——陪審員 # 8 でも **Atticus Finch** でもよい——あえて原則

の側に立ち不正を糾弾して、真理が勝つからである。

不幸なことに、現実世界では、正義はそんなに容易く手に入らず、公平はほとんど聞いたこともなく、真理はめったに勝つことはない。

書類では、あなたは有罪を証明されるまで無実かもしれない。しかし現実には、あなたはすでに裁かれ、有罪が確定し、警察官や、検察官や、裁判官によって、あなたが裁判所に出頭するずっと前から刑を言い渡されている。常習的な不正が、アメリカン・ドリームを悪夢に変えてしまった。その過程のあらゆる段階で——それが警察との出会いであろうと、検察官との取引、裁判官や陪審員を前にした法廷での説明、この国の多くの刑務所の一つの監禁期間であろうと——腐敗と職権乱用、市民の権利のぞっとするほどの無視が、このシステムに横行している。

ある罪で起訴された者に与えられる、しかるべき訴訟上の権利——黙秘権、起訴状を見る権利、忠告を得て発言する権利、公平な裁判への権利、スピーディな裁判への権利、証人や証拠によって無実を証明する権利、常識的額の保釈金を払う権利、裁判に先立ち法廷で衰弱しない権利、訴えた者たちに面会する権利、等々——これらは、政府がいつでも都合のよい時に、こうした職権乱用に対する歯止めを無視することができるとしたら、全く意味をもたなくなる。

アメリカにはこういう事実がある：——あまりにも多くのアメリカ人が、非暴力的犯罪で監禁される（我々は世界人口の5%を占めるに過ぎないが、我々の刑務所人口は世界の囚人の25%を占めている）。我々は他のどんな国よりも多額のカネを、収監に使っている（年800億ドル）。我々は、人々の罪が値するより長い刑期を宣告している。我々の刑事裁判制度は、色盲とはとうてい言えないものである（人種差別する）。この国の、学校から刑務所へのパイプラインは、刑務所の混雑に大いに貢献している。我々は囚人への報復よりも、更生に重点をおく必要がある……。ところでオバマ大統領は、こうした我々の刑事裁判制度の破綻した現状について、正しいことを言っていたものの、彼はこのアメリカの不正に貢献するものとして、政府の大きな役割を認めることはなかった。

実際、オバマは改革の責任は、もっぱら検察官、裁判官、および警察が担うべきものとしたが、彼は、我々の綻びた裁判制度の責任は、彼らだけでなく、立法府および立法府と一緒にあって被告の権利に敵対的な環境をつくり出す、私企業にもあることを、認めなかった。

このような風土の中では、我々すべてが被告であり、罪人であり、容疑者である。私の著書 *Battlefield America: The War on the American People*（戦場アメリカ：アメリカ国民に対

する戦争) に書いたように、我々は、市民が有罪と想定され、容疑者として扱われ、我々の運動が調べられ、交信がモニターされ、財産が差押えられ、捜査され、我々の身体的尊厳が無視され、我々の譲渡できない「生命、自由、および幸福の追求権」が、政府の優先権の前には無意味になるような、新しいパラダイムの中で活動している。

すべてのアメリカ人が今、不可解な法律があふれているために、身に覚えのない犯罪で、つけ狙われ、罰せられる危険にさらされている。更に悪いことに、政府の役人は超法規的に行動し、犯罪とはみなされないから、我々のつくり出した状況とは、法が一方的に、トップダウン式に降りてきて、人民を抑圧するハンマーとして使われ、一方、政府の職権乱用に対して我々を保護するためには役立たないという状況である。

そこへもってきて、利益がらみの収監のシステムがある。ここでは、州と連邦政府が、収容所を満杯にしておくことに合意するが、交換条件として、私企業に収容所の運営を委嘱することになっている。このような唾棄すべき腐敗を表現する言葉は一つしかない——「悪」である。

警官がまず発砲し、後で質問するが、彼らの不法行為には何のお咎めもないというやり方が許される制度を、他のどんな言葉で説明する？ フェーガソンとボルティモアで、丸腰の人間が撃ち殺されたことに糾弾の声が上がったにもかかわらず、警官の発砲のペースは落ちていない。

警官と衝突して生き残ったが、刑務所送りになり、「公正でスピーディな裁判」を待っている人々にとって、待ち時間は、しばしば恐ろしく長い。この国で監禁されている人々の 60% が、まだ量刑が決まっていないことを考えてみればよい。アメリカには、獄中または審理中の人々が 230 万人いる。保釈金を払えない人々の、「ある者は無実、ほとんどは非暴力犯罪、その大多数は貧困層」だが、彼らは裁判が始まるまでも、大体 4 か月は収監される。

第 9 巡回区控訴裁判所判事の Alex Kozinski が指摘した通り、無実の男女を犯罪者にし、終身監禁を可能にできる要因は、数えきれないほどある——信頼できない目撃者、あやふやな法的証拠、欠陥のある記憶、強制された自白、厳しい訊問戦術、何も知らない陪審員、取り調べ中の不法行為、虚偽の証拠、明らかに過酷な判決、等々。

2015 年初め、法務省と FBI が、「あるエリートの FBI 法科学部局のほとんどすべての調査官が、ほとんどすべての裁判で間違った証言を提出していたことを、正式に認めた。彼らは 20 年以上にわたって、刑事被告たちに不利な証拠を提出していた。…この確認は、法律アナリストたちによれば、この国の最大の法廷スキャンダルの一つの分岐点になるもので、こ

の国の法廷が何十年にも及んで、まやかしの科学情報を陪審員に与え、誰もこれを妨げなかったことを明らかにした。」

「ならず者法学者、その他の悪い警官たちが、我々の刑事裁判制度の中で、どうして栄えているのだろうか？」と、コジンスキー判事は問うている。「単純に答えるなら、検察官のある者たちがこのような不法行為に目をつぶっている理由は、彼らの関心が、正義の結果を求めることより、人を納得させることにあるということだ。」

検察官の権力を過小評価すべきでない。犯さなかった罪で牢に入れられた無実の人々を話題すると、ますます検察官が、その不正をもたらすのに大きな役割を演じている。ワシントン・ポストが報じているように、「検察側が彼らの扱う事件の 95%に勝ち、その 90%は裁判まで行く必要がなかった。…アメリカの検察官はそれほどに優秀なのだろうか？ そうではない。それは彼らの勧める（検察との）司法取引によるもの、官選弁護士による脅しと強制の制度によるもので、これは“ほとんどの他の真面目な国家では、法曹界から追放される”やり方だ。」

無実の人々が有罪を認めるこの現象は、刑事裁判制度が擁護するはずの、公平、平等、正義といったものを嘲笑うものである。Jed S. Rakoff 判事が結論するように、「我々の刑事裁判制度はほとんど完全に、法廷監視のない密室の交渉による司法取引の制度である。その結果はほとんど全面的に、検察官だけによって決まる。」

推計によると、検察官の司法取引に合意した重罪犯人の 2~8%は、彼らが犯していない犯罪によって服役している（アメリカには 230 万の囚人がいることを思い出してほしい）。

「公的安全のための連合」(Coalition for Public Safety) が「あなたは犯人になって、アメリカの刑事裁判制度によって、自分の生涯を台無しにされる必要はない」と結論したのは正しかった。

いつでもこうだったのではない。ラコフ判事が語っているように、建国の父たちが構想した刑事裁判制度の重要な点は、「陪審員裁判で、これは真理究明のメカニズムかつ公正を達成する手段であっただけでなく、暴政に対する防御手段でもあった。」

暴政に対する防御手段はとうの昔に破壊され、残酷さ、虚しさ、間違い、野望、それに政府とその共犯パートナーの貪欲さにさらされるアメリカ人だけが残った。

世界には、間違った有罪判決によって、その人生を中断された人々を償うための十分なカネ

はない。

過去 4 半世紀の間に、1500 以上のアメリカ人が、身に覚えのない罪が晴れて牢獄から解放された。これらは幸運な人々である。10 年、20 年、30 年と服役した後で、自分の無実を証明できて無罪となった囚人一人につき、弁護士も証拠もカネも、訴える手段もなく、それを証明できない無実の人々が、何ダースもいるだろうとコジンスキー判事は推定する。

アメリカの裁判制度の不正を、まだ十分に経験したことがない人々にとって、それはただ時間の問題である。アメリカはもはや、正しい手続き、無実の想定、原因の推定、それに政府の不当介入や警察の乱暴の禁止という明確な性格をもつ裁判制度のもとで、機能することはなくなった。逆に、我々の裁判所は、憲法に謳われた市民の権利を守るよりも、政府の利益を擁護する法廷へと変貌した。

政府の役人が憲法の規定を無視するときに、憲法をしっかりと護持しようとする法廷がなければ、またその規定が覆されたときに、憤慨して立ち上がるだけの良識ある市民がいなければ、憲法は警察国家に対して何の防御にもならない。

[ここから再び P・C・ロバーツの文章]

私がジョン・ホワイトヘッドの論文を読んだ日 (7/22)、警察による多くの無実のアメリカ市民殺しの新しい報道があった。Sandra Bland、黒人に対する警察の暴力に抗議した黒人女性が、虚偽の逮捕の後、テキサスの牢獄の独房で吊るされていた。

ほんの数日前、Samuel Dubose が彼の車の中に坐っていて、警官によって頭を撃ち抜かれて死んだ。

30 歳の喘息もちの白人の化学工学技師が、原因もなく手足を縛られたまま、ミシシッピ警察によって顔を息のできない状態にされ、その結果死んだ。

アメリカ人は、テロリストよりも警察によって殺される危険の方が大きい。イラク戦争の最中、アメリカ警察は、戦闘で殺された米軍より多くのアメリカ人を殺した。

この捻じ曲がった正義と、政府による制裁という暴虐の時代に、憲法はもはや、SWAT チームの急襲、国内での行動監視、武器をもたず脅威を与えない市民の警察による射撃、無期限の拘留、財産没収、検察による不法行為、等々の政府の犯罪に対して、防御手段になってい

ない。

今日アメリカ合衆国において、アメリカの市民は、マグナ・カルタ以前のイギリスの貴族と同じように、法によって保護されていない。アメリカは、独立宣言の時代よりも、中世の地下牢の状態とより多くの共通点をもっている。

市民が国家から全く保護を受けず、通りや我が家において、説明もなく警察に撃たれ、罪状も有罪判決もなく無期限に拘留され、疑わしいというだけで法的手続きもなく処刑されるような国家には、自由もなく、民主主義もなく、国民に対する政府の責任もない。

アメリカ合衆国はもはや人類の希望ではなくなった。USA は悪と恐怖の根源になった。アメリカは自分自身と共に世界を滅ぼすつもりだろうか？

(P・C・ロバーツについては、7/14 掲載「ペンタゴンの信念：世界を征服しない限りアメリカに安全はない」の末尾をごらんください。)